

民進党の宮崎岳志です。私は、民進党・無所属クラブを代表して、ただいま議題となりました政府提出「国家戦略特別区域法及び構造改革特別区域法の一部を改正する法律案」について、反対の立場から討論を行います。

総理、昨日は赤坂の居酒屋で、ある大新聞の政治部長らと楽しく会食されたそうですね。お礼の気持ちをお伝えになったのでしょうか。仲良くやってください。

本法案は国家戦略特区内で、小規模模保育の対象年齢を2歳から5歳まで拡大したり、農業分野における外国人の就労を解禁するもので、さまざまな懸念の声が上がっています。

特に問題なのは、外国人が全員派遣労働者とされ、農家が派遣会社にマージンを払わなければならないことです。そして、特区諮問会議で「農業に外国人を！」と主張し続けてきた民間議員は、なんと大手派遣会社の現職の取締役会長だったのです。

これは利益相反ではないですか。

地方創生特別委員会では、私たちの問題意識を与党にも共有され、賛成多数で次のような附帯決議が可決されました。

「(前略)民間議員等が私的な利益の実現を図って議論を誘導し、又は利益相反行為にあたる発言を行うことを防止するため、民間企業の役員等を務め又は大量の株式を保有する議員が、(中略)直接の利害関係を有するときは、審議及び議決に参加させないことができるものとする事」

特区を一部特定の人だけのものにしてはなりません。

しかし、いまや特区はオトモダチ利権の巣窟となってしまっています。その典型が、国家戦略特区で愛媛県今治市に獣医学部を新設しようとする学校法人加計学園をめぐる問題です。

理事長の加計孝太郎氏は、安倍総理本人が「ばくしんの友」と称する大親友。言葉の意味は良く分かりませんが、おそらく莫逆の友と腹心の友が混ざった、とにかくすごい友情です。

今月、内閣府が文部科学省に「総理のご意向だ」「官邸の最高レベルが言っている」と、早期開学をゴリ押しした経緯を記した内部文書が明らかになりました。

さらに、当時の文科省事務方トップ前川喜平前事務次官が実名で「文書は本物だ」「行政が歪められた」と証言しました。前代未聞です。前川前次官本人は記者会見で「証人喚問されたら参ります」と明言しました。

文書は本物か。行政が歪められたのか。前川前次官を国会に証人喚問し、偽証罪の縛りをかけて真実の証言を引き出し、この「権力私物化」の疑惑が事実かどうか解明することは、立法府の責務です。

私は、本衆議院に文部科学省・前川喜平前事務次官を証人喚問するよう要求します。

証人喚問を開いてください。総理、前川前次官に本当のことを言われるのが怖いのですか。文科省のウソがばれるのが怖いのですか。いつまでも逃げ回っていないで、いさぎよく証人喚問を受け入れるよう求めます。

安倍総理は、国家戦略特区で「岩盤規制に突破口を開く」と大見得を切りました。しかし、実際は岩盤に穴を掘って、金銀宝石、すなわち既得権益を「採掘」しているにすぎません。特区はオトモダチ利権の採掘口。一攫千金を夢見る野心家たちが群がって、さながら平成のゴールドラッシュです。

オトモダチでなければ分け前にはあずかれません。京都産業大学は長く獣医学部の新設を目指し、昨年10月には内閣府に具体的提案も行いましたが、その後、突然「広域的に獣医学部の存在しない地域に限る」などの条件が追加され、提案後なのに門前払いされたのです。

この提案の存在自体、報道機関が指摘するまで何ヶ月も隠蔽されてきました。安倍総理は3月の参議院予算委員会で「熟度の高い具体的提案は今治市の事業のみだった」と強弁しましたが、他になかったのではなく隠していたのです。

内部文書について菅官房長官は「怪文書のようなもの」と居直り、前川前次官に罵詈雑言を浴びせて人格否定を繰り返すばかりで、論理的な反論すら出来ないありさまです。一方の松野文科大臣は「怪文書という表現を私はしていない」などと逃げることで精一杯。

文科省による、文書が本物かどうかの調査も、ごく限られた幹部と共有フォルダを調べただけで、「確認できなかった」の一点張り。見つからなかったのではなく、見つからない場所だけを調べたのではないですか？

「ニセモノだ」とも言わず、内容の真偽も「調査していない」という。文科省はずっかり腰が引けています。これでは、文書が本物だと認めたも同然ではありませんか。

前川前次官は「赤信号のところを青にさせられている。白を黒にするようにいわれている。意に反することをさせられて、大臣も含めて本当に気の毒だ。現在の文科省はなかなか、官邸、内閣官房、内閣府といった政権中枢の意向や要請に逆らえない」と言っています。

文科省の皆さんに同情はします。しかし、日本国憲法第15条を思い出していただきたい。「すべて公務員は、全体の奉仕者であって、一部の奉仕者ではない」。霞ヶ関の方々は全国民の奉仕者であって、安倍総理とオトモダチだけの奉仕者ではないはずです。

菅官房長官は会見で、前川前次官について「ご自身が責任者のときに、もしそういう事実があるなら堂々と言うべきじゃなかったですか」と吐き捨てました。「官邸の最高レベル」にいる人間としてあまりに傲慢ではないでしょうか。自由にものを言えないようにしているのは誰ですか。

安倍総理が5月8日の予算委員会で、ある新聞の名を上げて「熟読してください」と訴えられました。アドバイス通り熟読していたら、突然、前川氏のプライベートなスキャンダルの記事がデカデカと掲載されたのでビックリ仰天しました。

私は新聞記者を15年間やりましたが、一般新聞でこのような記事を見たのは初めて。前川前次官は昨年秋、この件で官邸幹部から注意されていたようですが、退職後の今さら、それも実名でインタビューに応じる前日のタイミングで報道されたのは一体なぜでしょうか。

記者会見で「権力の脅しだと思うか」と問われた前川前次官本人は、「そんな国だとは思いたくない」と答えています。私もそんな国だとは思いたくありません。希望的観測ですが。

加計学園と森友学園。「かけそば、もりそば」と揶揄される二つの問題に象徴される今の日本。これが安倍総理の目指す「美しい国」ですか。

総理夫人のオトモダチなら、国有地を8億円も値引きしてもらえる。総理のオトモダチなら、作れないはずの学校が出来、37億円の土地と96億円の補助金が貰えて、ライバルも排除してもらえる。

あるべき文書が保存されず、公開すべきデータはパソコン上から消滅し、文書の実物が出てくれば「確認できない」と繰り返される。

オトモダチ利権のために真面目な官僚を追い詰め、行政を歪めていく。内部告発者は突然のスキャンダルに見舞われ、つるし上げられ、政府高官から罵詈雑言を浴びせられる。

これが「美しい国」ですか。

我々は規制緩和を否定はしません。しかし、「オトモダチ利権」と化した国家戦略特区制度は抜本的な見直しが必要であり、本法案には到底賛成できません。最後に、加計学園問題を解明するため、前川喜平前文部科学事務次官の証人喚問をあらためて求めて、反対討論を終わります。

(了)